



本事業は、SDGsの「17 パートナシップで目標を達成しよう」に資する取組です。

2025年5月8日（木）
愛知県政策企画局国際課
渉外・交流グループ
担当 上窪、福森
内線 2256、2446
ダイヤル 052-954-6181

知事の中東渡航中の行事結果について

2025年5月7日（水）午前、知事はトルコ共和国・イスタンブールにおいて、アイシンのドアフレーム、ドアロック等の自動車部品の製造拠点であるアイシントルコを訪問しました。

午後には、トルコ初の海軍博物館である海事博物館を訪問しました。

1 アイシントルコ訪問

(1) 日時

2025年5月7日（水）午前10時から午後1時30分まで

（日本時間5月7日（水）午後4時から午後7時30分まで）

(2) 場所

アイシントルコ（イスタンブール）

(3) 応対者

<アイシントルコ>

ムラット・アヤバカン社長、^{くにたけひでき}國武英樹副社長 他

<アイシン・ヨーロッパ>

スチュワート・ネピア社長、^{ひびゆうすけ}日比佑輔エグゼクティブコーディネーター

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、2004年に設立されたアイシンのドアフレーム、ドアロック、シートベルトセンサー等の自動車部品製造拠点であるアイシントルコを訪問しました。

始めに、アイシン・ヨーロッパの日比エグゼクティブコーディネーター及びアイシントルコの國武副社長から各々、アイシン・ヨーロッパ及びアイシントルコの会社概要について説明を受けました。その中で、環境保全活動の取組として、アイシン・ヨーロッパでは、2040年までに、カーボンニュートラル実現を目標に掲げていること、アイシントルコでは、海洋ゴミ回収船の建造費用の寄付、トルコ・マラティアにおける太陽光発電プロジェクトといった取組を実施していることについて紹介がありました。また、アイシントルコでは、2023年に発生したトルコ南東部大地震への支援を始め、様々な社会貢献活動を行っている旨の説明がありました。

その後、工場を視察しました。メタル・プラントでは、ドアフレームの整形・組立の工程を、プラスチック・プラントでは、ドアハンドルの整形・塗装、組立の工程を、アッセンブリー・プラントでは、着座センサー、ドアロック及びドアチェックの組立

の工程を見学しました。この他、製造品を出荷する出荷場や新たな技術を研究・開発する「カイゼン」の場について紹介がありました。

その後、昼食を挟み意見交換を行いました。アヤバカン・アイシントルコ社長から、「愛知県から要人をお迎えできて誇りに思う。トルコは日本、愛知県と親和性がある。アイシントルコでは『カイゼン』を始めアイシン本社の精神や社風を実践している。」との発言がありました。これに対して、大村知事から、「2019年6月のG20サミットの際、エルドアン大統領が愛知県を訪問され、在名古屋トルコ総領事館の開設を表明された。その後、わずか5か月後の同年11月に開設に至った。愛知県には、全国で2番目に多い約1,800人のトルコの方々が在住している。これからも交流を深めていきたい。アイシントルコの工場を視察し、想像以上に施設や工程が集積していると感じたが、限られたスペースで工夫をされて運営していることに感銘を受けた。」と述べたところ、アヤバカン社長から、「『カイゼン』の精神で創意工夫をして運営をしている。」との発言がありました。最後に、大村知事から、「愛知県には外国人在住者が多いため、トルコの方々にとってもフレンドリーな場所であり、ますます親しく交流していきたい。アイシントルコがさらに創意工夫と『カイゼン』を重ねて、一層発展することを祈っている。」と述べて、意見交換を締めくくりました。

<アイシントルコ概要>

- (1) 所在地 トルコ共和国 イスタンブール トゥズラ地区
- (2) 設 立 2004年8月
- (3) 代表者 ムラット・アヤバカン社長
- (4) 従業員数 約630名
- (5) 生産施設 20,465平方メートル規模の金属、プラスチック、組立ての3工場から成る



概要説明の様子



メタル・プラント視察の様子



プラスチック・プラント視察の様子①



プラスチック・プラント視察の様子②



記念撮影

(右側がアヤバカン・アイシントルコ社長、
左側がネピア・アイシン・ヨーロッパ社長)



アイシントルコ、アイシン・ヨーロッパの皆様との記念撮影

2 海事博物館視察

(1) 日時

2025年5月7日(水) 午後2時30分から午後3時30分まで

(日本時間5月7日(水) 午後8時30分から午後9時30分まで)

(2) 場所

海事博物館 (イスタンブール)

(3) 応対者

エルトゥルク・ハリク館長

ヤカルチェリック・ナーラン博物館ガイド

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、世界最古のガレー船「カイク」を始め、オスマン・トルコ海軍に関する軍事品の重要なコレクションが所蔵されている海事博物館を訪問しました。

大村知事は、ハリク館長の案内により、オスマン朝時代の海軍により使用されていた船舶の模型、船舶用具、武器、絵画等を視察しました。また、1453年のオスマン帝国によるコンスタンティノープルの征服のための作戦において使用された鎖やその戦いを描いた絵画など、歴史的に著名な戦いを物語る数々の遺物を視察しました。

また、大村知事は、1890年に和歌山県沖で沈没した軍艦「エルトゥールル号」に関する資料や模型なども視察しました。ハリク館長から、エルトゥールル号の派遣から船の沈没、生存者と遺品が返還されるまでの説明があり、「この不幸な事件は今日まで語り継がれ、トルコと日本の友好の原点になった。」との発言がありました。また、生存者と遺品を返還した2隻の軍艦「比叡」及び「金剛」の模型について、ハリク館長から、「トルコと日本の両国海軍の末永い友好の願いを込めてトルコ海軍司令官に寄贈されたものである。」との説明がありました。

これに対して、大村知事から、「愛知県には、トルコの方々が多くおられ、これから

もトルコと愛知県の交流を深めていきたいと考えており、日本とトルコの関係強化に寄与していきたい。」と話しました。

<海事博物館概要>

- (1) 所在地 トルコ共和国 イスタンブール ベシクタシュ地区
- (2) 設 立 1897年
- (3) 設立者 ハサン・フスヌ・パシャ (当時のオスマン帝国海軍大臣)
- (4) 概 要 オスマン・トルコ海軍に関する軍事品の重要なコレクションを所蔵する海洋分野でトルコ最大の博物館。毎年9月16日に日本とトルコの友好関係の起源とも言われているエルトゥールル号事件追悼式典を開催している。



ハリク館長との記念撮影



ガレー船「カイク」視察の様子



館内視察の様子



記念撮影
(右側がハリク館長、左側がナーラン博物館ガイド)